

自治研 センターニュース

1990. 1. 18

No. 85

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

センター事業をさらに充実

——第5回総会開催される——

自治研センターの第5回総会が、1989年12月22日(金)に川崎市立労働会館で開催された。

地方自治研究会、国際化問題研究、委託研究としての「地方自治体における国際化」、

「行政区別環境指標調査」、講演会、ニュー



あいさつする岩淵理事長

スの発行等の1988年度の活動が報告されたあと、調査・研究・学習・出版の4つの柱を中心とした1989年度の活動が全会一致で承認された。

講演会・読書会・センターニュースの発行といった日常的な活動に加え、本年度もイギリスのシェフィールド大学日本語研修受入れ事業へ積極的に参加することや、さらに各種事業を充実していくことなどが決定された。

役員については林光昭理事、大山久人理事が退任し、新たに川崎市労働組合連合会事務局長の江井茂理事、川崎市職員労働組合書記長の小西正典理事が就任した。

事務局体制についても別表のとおり変更になり、気分を新たにしてセンターの業務にとりくむことになった。

89年度(社)川崎地方自治研究センター 役員及び事務局体制

役職	氏名	所属及び役職
理事長	岩淵英之	早稲田大学教授
常任理事	深堀義孝	川崎市職員労働組合中央執行委員長
理事	森山定雄	川崎市教職員組合執行委員長
〃	嶋崎徳男	全川崎労働組合協議会副議長
〃	江井茂	川崎市労働組合連合会事務局長
〃	加藤壺将	川崎水道労働組合執行委員長
〃	梅田武	川崎交通労働組合執行委員長
〃	鈴木安房	川崎市職員労働組合副中央執行委員長
〃	小西正典	〃 書記長
顧問	白井則彦	電気労連神奈川地区協議会副議長
監事	上杉孝	川崎市教職員組合生活部長
〃	和田秀樹	川崎市職員労働組合財政部長
事務局長	高畠正晶	〃 自治体政策部長
事務局次長	関智義	川崎市教職員組合副委員長
〃	板橋洋一	川崎市職員労働組合調査部長
〃	中嶋一郎	〃 労働学校事務局長
〃	鈴木哲朗	〃 教宣部長
専任研究員	佐藤紘毅	
担当書記	永橋豊子	

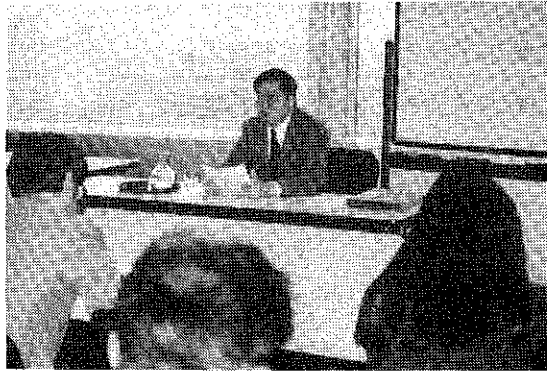
地方自治研究センター主催

ヨーロッパ都市再開発視察の旅

- ・内容 ウェストエンド(ドイツ)、ブルウエル(イギリス)の都市再開発地区視察を中心に、初春のヨーロッパを訪ねる。
- ・期日 3月15日(木)～3月25日(日) 11日間
- ・費用 ひとり 428,000円(高級ホテル泊、自由時間以外は食事付)
- ・問い合わせ・申し込み 自治研センター 244-7610(1月末日締切り)

1 報告

12月14日(木), 産業振興会館にて, 法政大学教授下斗米伸夫氏により「激動する東欧社会」のテーマで開催された。要旨は次のとおり。



講演中の下斗米教授

東欧の政治改革を, 89年6月の北京の天安門事件とペレストロイカを挟んで, 一つの連続した過程の中でとらえるべき。(今の東欧の動きは) 権力エリートたちによるナショナリズムの相貌をもったネオ・スターリン体制が, 国家的な社会主義に対してノーを言っている状況である。いまヨーロッパで起きている冷戦の終わりの遠因の一つは, EC域内での社会間交流であるが, アジアにおいては, 人の行き来の社会間交流が少ない。その意味でアジアの冷戦構造が変わっていくには, 日本の国際化が非常に大きな課題となっていく。

2 予告

ハイテク社会と労働

ハイテク社会と言うと, いかにもバラ色に思える。しかし, 現代における先端的職場のいくつかを観察すると, さまざまな問題が横たわっている。

「ハイテク社会」と呼べる現代社会における「労働」の現状とその近未来について考える。

日時 1月26日(金) 午後3時~5時

場所 労働会館 3F第2研修室

講師 羽生田鉄工生産技術室長

森 清氏

※希望者は自治研センターまで連絡をして下さい。

読書会

「NO(ノー)」と言える日本

—新日米関係の方策—

盛田昭夫・石原慎太郎著

現代日本人の意識改革こそが必要だ

日本はアメリカの恫喝に屈するな

日本人は, 自ら発した日本の「ノー」を自覚することで初めて大人の日本人として世界の仲間入り, 同心円としての世界の中の円に入ることが可能になると著者は語る。

国際化の渦の中で日本のスタンスはどうかえていけばよいのかを探ります。

日時 1月22日(月) 午後6時~

場所 市労連会館4F

※誰でも参加できます。

「地区カルテ」市民討議

川崎市企画調整局から発行されている「地区カルテ」。行政区別に編まれた資料集として高い評価を受けているが, 若干使いづらく市民の利用ももう一つといったところ。

現在, 自治研センターでは「地区カルテ」の改訂に向け, 若干の市職員を中心に市民に利用されるように, 市民参加, 職員参加の観点から検討を重ねています。

その一環として, 下記の日程で市民からの直接の声を聞く会を催します。

1月30日(火) 午後2時~

生活クラブ生協高津センター会議室

(問い合わせ 244-7610)



国際交流って何だろう。筆者は4年近く青少年の国際交流事業に携わったのだが, まだまだわからないことが多い。昨年のシェフィールド大学の日本語研修受け入れのときにもこんなことがあった。雨が急に降ってきた時に私はびしょ濡れしている学生に傘をさし出した。するとその学生は言った。「オセッカイ」と。 「雨」に対しての感覚が日本人と違うことはわかっている。しかし私は少なからずショックを受けた。 ホームステイでも, いつもの生活, いつもの食事をお願いします — と言っても, どうしても一皿多い。 外国人とつき合うときのぎこちなさは, やはり何といっても経験の積み重ねによってしか払拭できない。 お互いの違いを認め合うことは言葉では言えるけれど, 「仲間」の中に自己と同質性を見つけ出すことによって安堵感・一体感を培ってきたといわれる私たちにあって実行するには一苦労だ。 パーティで笑いあうだけの時代はすぎ, お互いの生活のレベルでつき合う時代がやってきた。

自治研 センターニュース

1990. 2. 20

No.86

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

今年も シェフィールド

≡ 学生45名が来川の予定 ≡

シェフィールド大学から45名の学生がやってくる。期間は4月20日(金)～5月27日(日)までの38日間で、ホームステイをしながら市民と交流し、生活を共にしながら日本語を学ぶ。

今年は研修会場を総合教育センターから、川崎市立労働会館と法政大学多摩キャンパス(町田市)に移す。そのため、川崎での前半3週間は市内南部を中心にホームステイを行い、後半2週間は市内北部を中心に行う。

今年のプログラムは全体的に余裕のあるものとし、原則として土曜・日曜は「ホームステイプログラム」として、家族の人とゆっくりとすごしてもらおう予定である。

川崎での研修の後は大阪府箕面市でさらに

研修を続けるが、箕面市では大学の正規の試験が待ちうけており、学生たちは学習に交流にかなり忙しい日々を送ることになる。



メーデーに参加('89)

ホームステイ募集中

ホームステイについては3月3日(土)と3月5日(月)に中小企業婦人会館で説明会を行う。

食事・言葉の問題や全体のプログラム等についての詳細について、説明を行う。



ダイコンを食べるヘビメタ('89)

ボランティアに参加を

行事としては日本の伝統文化を学んだり、市内見学を予定しているが、ホームステイの家族の人といっしょに川崎市の環境を考えながら市内をめぐる「環境オリエンテーリング・イン川崎」も企画中。

その他にも昨年同様に野球観戦等も予定しているので、会員の積極的な参加をお願いしたい。

ホームステイ説明会

- ・日時 場所 ①3月3日(土) 午後2時～4時 中小企業婦人会館大ホール
- ②3月5日(月) 午後2時～4時 中小企業婦人会館大会議室
- ・どちらか都合の良い日に参加して下さい
- ・申込問い合わせ 245-9881

国際交流協会

シムズ学長も来川

1月12日(金)に多忙な中をシェフィールド大学学長のシムズ氏(SIMS・Geoffrey Donald)が川崎市を訪れた。

学長は昨年39名の学生が大へんお世話になったお礼を、受け入れ実行委員長であった高橋清市長に述べ、今後の協力を要請するとともに、是非シェフィールド市に来てほしいと語った。

市長からも市民交流の重要性と川崎市の国際化にむけてさらに積極的にとりくむとの言葉があった。



講演会

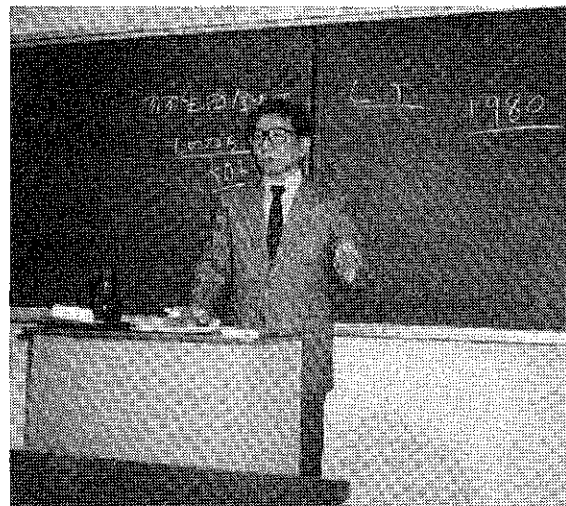
(報告)

1月26日(金)労働会館において技術問題評論家の森清氏による「ハイテク社会と労働」のテーマによる講演が行われた。

講演の要旨は次のとおり。

労働に対する価値感が大きく変わってきており、生産中心が生活中心へと移ってきている。子どもをふろに入れなくてはいけないのと言って家に早く帰る労働者もいる。これは一昔前では許されないような雰囲気があったが、今では生活者としての労働者がどうあるべきなのかが問われている。

高度経済成長のころは、男の仕事はかせぎに集中していた。それが男の生きがいで、社会的にも善であった。しかし、そういう男の働き方がハイテク社会といわれる労働環境の



講演する森 清氏

中で大きく変わりつつある。

企業も変わっていかなくては、若い人たちにますますきらわれてしまう。60歳以上の人たちが、おれたちはもっと一生懸命働いたぞというのが一番よくない。

※関心のある方は「ハイテク社会と労働」(岩波新書)をご一読下さい。

(予定)

ヨーロッパにおける外国人 市民への人権政策

日時 3月14日(水)午後3時~5時

場所 ユニオンビル2F会議室(武蔵小杉駅
下車徒歩3分)

講師 法政大学法学部教授 江橋 崇氏

※希望者は自治研センターまで連絡をして下さい。また、当日は引き続き英文市民ガイドブック完成記念パーティを開催します。

読書会

・2月26日(月) 午後6時~

・市労連ビル4F

「ナウなヤング」岩波ジュニア新書

「近ごろの若者」厳密には「現在都会で暮らしている、高校・大学生及び相当する年齢の人」についての本。

※どなたでも参加できます。

英文市民ガイドブック完成

まじか

川崎に住んでいる外国人のための生活ガイドブックが間もなく完成する。

川崎市市民局より委託を受けた自治研センターでは海外派遣研修生で組織したTGAL(Think Globally Act Locallyテァーギャル)のメンバーを中心として編集をすすめてきた。

病気になった時や、子どもの教育についての情報など、どれも川崎市で生活する上で役に立つ情報ばかりを苦勞の末、「英語」でまとめあげたもの。

3月14日(水)には出版記念講演とレセプションを予定しており、苦勞話も聞けるようである。

バリ島交流

— 2名が川崎を訪問 —

'90.1.22

「バリには2つのタイプの芸能がある。1つはショー用で、もう1つは飾られていない本当の伝統的な芸能である。スウエチャさんの踊りはもちろん後者である。バリに多くみられるホテルは人々の生活から遠く離れ、閉鎖的で、本当の伝統的な芸能には触れられない。

現地の人々の生活、伝統的芸能に触れることができ、そして農民達に仕事を作ることで、地域をおこしていく“地域おこし型ゲストハウス”を是非、作りたい」とカレラン氏が語った夢に参加者は強い興味を示していた。



うなぎのどこ

「善人の条件」という映画をビデオで見た。丹波哲郎扮する選挙参謀が言う、「選挙とは候補者という名の馬に乗った参謀どうしの一騎うち」である。

映画の中で、票を金で買ったり、スキャンダルの暴露合戦には笑いつつも、やりきれない思いをもつ。

選挙が近くなると電柱は候補者のポスターでうまり、街は落ちつきをなくす。美観を損ねることおびただしく、これでは公営掲示板を数多く作った意義も失いかねない。

もっと落ちついた、成熟した選挙活動ができないものか。参謀をふりおとすくらいのもともな候補者が増えてほしいものだ。

(ターミアン)

自治研 センターニュース

1990.3.14

No.87

発行責任者 深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話 044 (244) 7610

Let's Enjoy English

—英会話講座のお知らせ—

申込みは自治研センター(244)7610へ

自治研センター主催・英会話講座を4月より開催します。

講師は前回に引き続きローナ・ヒートンさんと、ティム・スコッフィールドさんです。

入門コースは火曜と木曜日に授業を行い、英会話の基礎から学びます。

初級コースは金曜日にやさしい会話を中心に学習を進めます。

いままで英語を学ぼうと思っていても、今一つ勇気が出なかった方、仕事で「ああ英語がもう少し話せたら」と一度でも思った方、この機会に是非ご参加下さい。

レッスンはファミリームードになごやかにすすみ、7月のおわりにはきっと「国際人」になれることでしょう。

1. 入門コース 講師 ローナ・ヒートン

曜日	Aクラス	火曜日(4月3日~7月31日)
	Bクラス	木曜日(4月5日~7月26日)
時間	A・Bクラスとも 午後6時~7時30分	
場所	市労連会館4階会議室	
費用	月4,000円×4ヶ月=16,000円(テキスト代含む)	
定員	各クラス 20名(先着順・定員になりしだい締切り)	

2. 初級コース 講師 ティム・スコッフィールド

曜日	金曜日(4月6日~7月27日)	
時間	午後6時~7時30分	
場所	市労連会館4階会議室	
費用	月4,000円×4ヶ月=16,000円(テキスト代含む)	
定員	各クラス 20名(先着順・定員になりしだい締切り)	



ローナ・ヒートンさん



Let's speak English!

地域からの教育改革

川崎の教育改革協議会 中間報告へ

川崎の教育改革協議会（会長 森山定雄川教組執行委員長，研究委員長 岩淵英之自治研センター理事長）は，中間報告にむけて会議を重ねている。

同協議会は「臨教審」のような上からの教育改革ではなく，地域から積み上げられた市民合意の教育改革をめざし，川崎市教職員組合，川崎市職員労働組合（教育支部），川崎地方自治研究センターの三者により構成されている。

学校部会と施設部会に分かれ，学校部会では，学校を地域の教育文化施設として位置づ

け開放を図るため，学校の管理者，教職員及び利用する住民の意識のあり方や施設及び管理体制のあり方を検討している。

施設部会では，社会教育施設及びこども文化センターについて，こどもと地域を中心として，その機能と役割の見直しを行い，機能の充実・事業展開の方向，職員・住民の意識について検討するとともに，地域団体，学校，施設相互のネットワークづくりから地域教育会議への展望を検討している。

中間報告の内容としては，

1. 学校と地域のつながりを深め，地域のネ

- ットワークをつくりだす
2. 地域の教育文化センターとして開かれた学校をつくりだす
3. 青少年及び成人の地域活動を発展させる
4. 教職員の地域参加を進める
5. 部活動の一部を地域プログラムとして推進する等が主な項目となる予定である。

また，学校5日制にむけたとりくみや，「地域教育会議」として，親・教職員・住民そして子ども代表も加えての，地域の教育問題解決のためのシステムの実現にむけて汗をながしている。

民主的な教育をめざしてさまざまなとり組みがなされているが，川崎においてもこれまでのとり組みをふまえ，教育改革運動が確実の推進されているといえる。

'90海外派遣のつどい

昨年の秋にアメリカおよびヨーロッパ各国に研修に派遣された職員の研修成果の発表等を行う「海外派遣のつどい」を3月29日（木）労働会館で開催いたします。

東京大学法学部教授馬場康夫氏の講演「国際社会における日本（仮題）」や，ふれあいパーティも行いますので，お友達をお誘い合わせの上，ふるってご参加下さい。

申し込みは各局を通じ，職員研究所まで。



読書会

- ・日時 3月19日（月） 午後6時～
- ・会場 市労連会館4F
- ・内容 東欧ソ連の明日を問う
毎日新聞外報部
（毎日新聞社）
- ・どなたでも参加できます。

うたぎぬどこ

高橋新市長の「一九九〇年度施政方針」を読んだ。市長の市政に対する前向きな意欲が行間にあふれている。

課題はこの方針を職員ひとりひとりが、おのおのの職場の中でどのように活かすかにある。

「これまでの行政の範囲にとらわれることなく、より広い視野と柔軟な発想が何よりも求められております。」とあるが、前例踏襲主義は（この組織でもありがちだが）やはり職場に根を張っているのではないか。

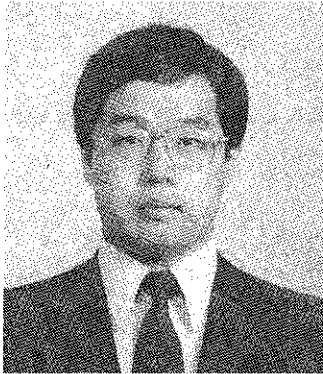
広い視野と柔軟な発想を活かすには、それを許容する環境が必要だ。市長のこの言葉を現場でいかに実践するか。

「人事の刷新、組織・機構の見直し、さらには職員の自主性・創造性の開発など、行政運営のよりいっそうの活性化に努めてまいります。」ともある。そして管理職については「信賞必罰」の言葉も使われている。

高波の中を船出した「高橋丸」、その命運の鍵を握るのは漕ぎ手である。

専任研究員 2 名体制へ

— 第 1 回理事会の報告 —



月村 太郎氏

- ・主な研究テーマ 東欧のナショナリズム
- ・趣味 料理（作ることに食べることに）
- ・これからの抱負 明るく楽しく一生懸命頑張りますのでよろしくお願いたします。

第 1 回理事会が市労連ビル 5 階において 3 月 28 日(水)に開催された。

これまで自治研センターの専任研究員は、佐藤紘毅氏 1 名であったが、4 月より月村太郎氏(写真)が加わり、2 名で担当することになった。

月村氏は 1983 年に東京大学法学部を卒業の後、東京大学助手、(財)行政管理研究センター研究員等の職務についていた。

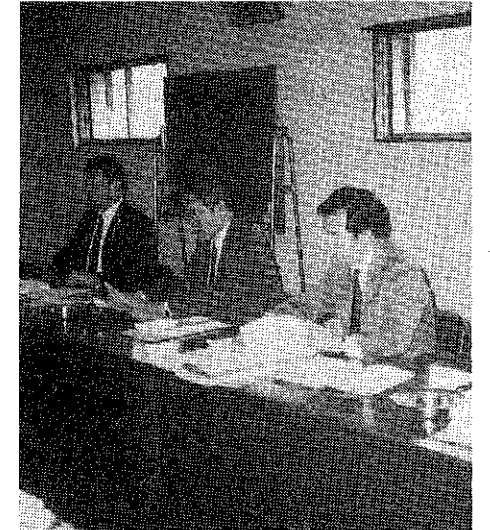
今後も神奈川大学、法政大学で講師として教鞭をとるかたわら、自治研センターに新しい力として加わることになった。

シェフィールド大学川崎受入れをはじめ、講演会、各種研究会等自治研センターの仕事も拡大しつつあるが、より充実した活動をめざしてゆく予定である。

実行委員長に高橋市長を選出

自治研センター理事会終了後に開催されたシェフィールド大学川崎研修受入実行委員会では、各種行事やホームステイにより学生と市民との交流を図る事により、自治体における生活に根ざした国際交流を行うことが決定された。

実行委員の構成は別表のとおりであり、受入れの事務局については、自治研究センターと(財)川崎市交流協会が共同して担い、円滑な受入れをめざす。



シェフィールド大学川崎研修受入実行委員会

委員長	川崎市長	高橋 清
副委員長	川崎市助役	深瀬 幹男
〃	川崎市教育委員会教育長	池田 輝夫
〃	(財)川崎市国際交流協会	井上 隆
〃	(社)川崎市地方自治研究センター理事長	岩淵 英之
〃	(社)川崎市地方自治研究センター常任理事	深堀 義孝
委員	(社)川崎市地方自治研究センター顧問	白井 則彦
〃	(社)川崎市地方自治研究センター理事	森山 定雄
〃	川崎市市長室参事	伊藤 弘美
〃	法政大学教授	下川 浩一
〃	東京大学教授	高橋 進

海外派遣研修のつどいに70名

3月29日(木)、午後1時30分より、海外派遣研修のつどいが労働会館で開催され、これから研修に参加したい人、OB等が多数参加した。このつどいは、89年度に派遣された研修生の研修報告とともに、今年は是非海外派遣研修にチャレンジしてみようという職員のためにさまざまな情報を提供する機会としても定着しつつある。

当日は東京大学法学部の馬場康雄先生から「国際社会における日本」のテーマで講演をしていただき、アメリカ班、ヨーロッパ班に分かれて研修成果の発表が行われた。

5時20分すぎからは「ふれ合いパーティ」

講演会

自治研センター主催の4月定例講演会を開催いたします。希望者はセンターまでご連絡下さい。

- 1 講師 横山すみ子
(生活クラブ生協神奈川オルグ)
- 2 テーマ 衆院選をふりかえって
- 3 日時 4月18日(水)
午後3時～5時
- 4 会場 川崎市労働会館5階講堂

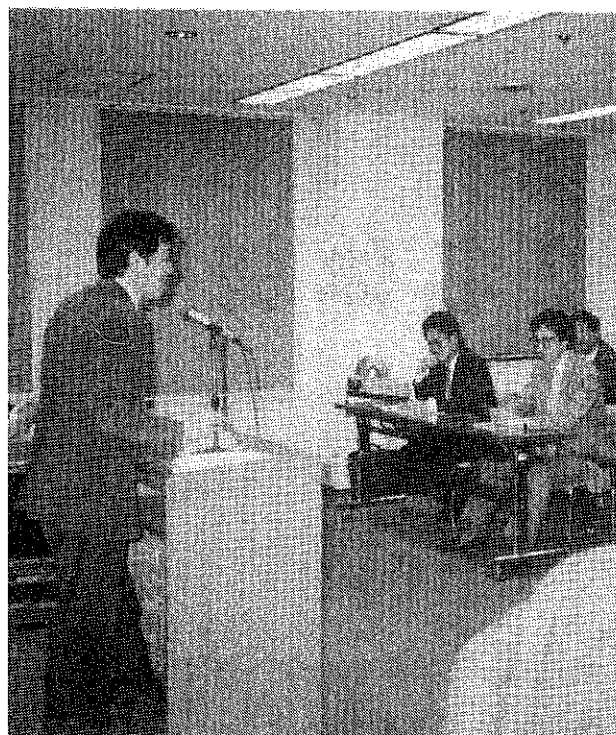
が開かれ、なごやかなムードの中で、海外での思い出や、これからの抱負等が語られた。

参加者アンケートから

アンケートから参加者の意見を紹介する。

- 1 つどいに参加した動機
 - ・海外派遣研修の内容についてくわしく知れたかった。
 - ・すでに研修にいった人の話を聞くため。
 - ・馬場先生の講演をきくため。
- 2 海外派遣研修について
 - ・見聞をひろめ、人間的な幅を広げる場
 - ・毎年もっと多くの職員に機会を与えてほしい。
 - ・自らのテーマが調査できる実にユニークな研修である。
 - ・研修生の積極的な姿勢に共感を覚える。
 - ・労働意欲・向上心の維持の糧になっている。
 - ・よい刺激になる。
- 3 つどいへの意見・感想
 - ・もう少し研修生の裏話が聞きたかった。
 - ・具体的なアドバイスがほしかった。
 - ・参加した人たちのそれぞれの目的、体験談をじかに聞けて、一人で海外研修にのぞむ不安を少しでもやわらげる手助けになった。

- ・まじめそうな人が多く、圧倒されました。
- ・パーティがよかった。



講演する馬場先生

読書会

「ビートルズを知らなかった紅衛兵」
唐亜明(とうあめい)

1953年中国北京市生まれ。中国人民大学新聞学科卒業。83年来日、早稲田大学文学部卒業。現在出版社勤務。

紅衛兵世代の青年が、はじめて日本語で書き下した50年に及ぶ家族の記録は、社会の激動と革命の実態をつぶさに明らかにした貴重な中国現代史でもある。

日時 4月23日(月) 午後6時～

会場 市労連ビル4階

※どなたでも参加できます。

うたぎれどこ

隣のビルのベランダで犬が昼寝をしている。春のやわらかな日射しを浴びて大きなあくびをひとつ。

4月22日は「アースデー」。22日から1週間を中心に、全世界の市民が連帯し、全地球規模での地球環境を守るアクションを行う。

オゾンホール出現、温暖化現象、酸性雨、有毒廃棄物、熱帯雨林の減少、砂漠化の進行、海洋汚染、放射能汚染、数え上げればキリがないほど地球は病んでいる。その原因は人間そのものにあり、充たされることのない利便と利潤追求の欲求が源である。

もっと人間らしい、環境との共生が必要だ。地球を救う133の方法にこのような一文がある。「ただ生活に追われ金もうけに走るだけでなく、働くことの意味を考え、仕事の内味・内容を選択する。」
私もあの犬から学ばなければ。
(ダーミアン)

自治研 センターニュース

1990. 6. 14

No. 89

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

自治研センター主催

市民オンブズマン連続講演会

オンブズマンとはスウェーデン語で監視官、監察官等と訳されている。

人権を擁護するため市民が申し立てた行政苦情を調査する法的権限を持ち、かつ、行政を監視する任務を持つといわれている。

しかし条例が制定され、それに基づいて新しい制度が実施されるにあたり、その導入の経緯、組織、権限や手続き等についての理解は十分であるとはいえない。

自治研センターではこれまで月1回のペースで行っていた講演会を、3回連続でオンブズマンについての理解を深めるための機会を設けることとなった。

89年の川崎市長選挙で公約されたこの制度は、全国の自治体にも少なからぬ影響を与えられると思われるので奮っての参加をお願いしたい。

	期日・時間	講師	会場
①	6月21日(木) 午後3時～	(助)行政管理研究センター調査研究部長 岡崎信孝氏	市労連ビル5F
②	7月6日(金) 午後3時～	千葉大学助教授 多賀谷一照氏	市労連ビル5F
③	7月19日(木) 午後3時～	市民オンブズマン制度準備室主幹 荒井和雄氏	市労連ビル5F

問い合わせは自治研センターまで



メーデーに参加した学生たち

メーデー、運動会、環境オリエンテーリング等の行事に参加したイギリスのシェフィールド大学生が5月27日(日)に大阪府箕面市へ移動した。

日本での後半の研修は、川崎での5週間にひきつづき箕面市でも5週間行われるが、さらに彼らの日本語能力が向上することを期待したいものである。

サヨナラ

シェフィールド

思い出残し5/27大阪府箕面市へ

5月26日(土)、川崎市労働会館においてサヨナラパーティが開催された。パーティには川崎で前半、あるいは後半にホームステイを受け入れた家族をはじめ、関係者を含め約250人の参加者が、川崎での研修のなごりを惜しんだ。

シェフィールド大学川崎研修副実行委員長の深堀義孝市職労委員長より主催者あいさつの後、地方自治研究センターの岩淵理事長の音頭により乾杯が行われた。

シェフィールド大学生の歌や、ホームステイ家族の感想等も交え、川崎での最後の夜が、日本語と英語が入り混じった中、ふけていった。



向ヶ丘遊園にて

はーつー・はー 完成

外国人用生活ガイドブック

川崎市に住む外国人のための生活ガイドブックがこのほど出来上がった。冊子の名前は「はーつー・はー」でB5判、112ページで

ある。英語の「ハート・ツー・ハート」をもじったもので、病気や盗難にあったときの心強い味方になってくれる、和英対象の情報ブックである。

易しく、親切に

自治研センターでは川崎市の委託を受け、海外派遣研修経験者等に協力を依頼し、異なる制度、習慣を市内在住外国人に知ってもらい、少しでも不安や心配をなくしてもらおうとの思いからこの冊子の編集を引き受けた。

言葉の壁は厚く、何度か挫折の危機があったものの、川崎の国際化を考える会(T・G・A・L)の浅井雅美氏を中心に、市職労まんが集団の協力も得て完成にこぎつけた。

市が実施した外国人対象のアンケートでも「英語を話せる医師がどこにいるのか知りたい」「銀行や郵便局の窓口でどうすればいいのか迷った」「案内標識がどうすればいいのか迷った」など情報不足による不便さを指摘する外国人が多かっただけに、キメ細かく説明をしてある本書の活用が望まれる。

やっと

読書会

「都市を遊ぶ」

高田公理

1944年、京都に生まれる。

京都大学理学部卒業。

現在、愛知学泉大学講師。

専攻は都市文化論・比較文化論。

感性と欲望を刺激された現代人は、

街を舞台とするドラマの主人公である。

情報やシンボルを追うハンターでもある。

都市の豊饒なコードを読み解き、

<かぎ、あじわい、さわれる>空間の

魅惑を縦横に語る問題作。

日時 6月18日(月)午後6時～

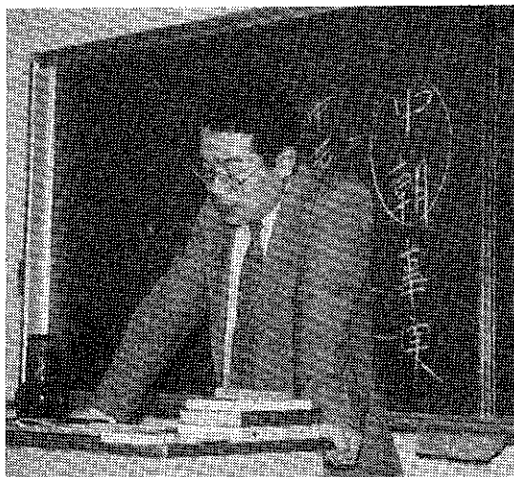
会場 市労連ビル4階

※どなたでも参加できます。

講演会(報告)

国際化時代の日本人論

講師 神奈川大学助教授 橋川俊忠氏



講演中の橋川氏

去る5月22日(火)、労働会館にて、神奈川大学助教授橋川俊忠氏より「国際化時代の日本人論」のテーマで開催された。要旨は以下の通り。

日本人論の多くは、日本の説明に都合

がよい事実のつなぎ合わせであった。このパターンは江戸時代に既に形成されている。例えば山鹿素行『中朝事実』。

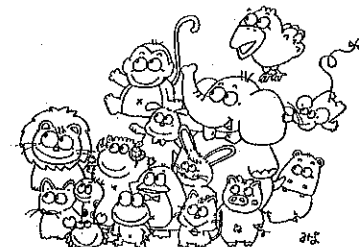
日本人論の問題点は、国内向けのみのイメージの提起、時代による変化の無視、外国語への翻訳等である。以上の問題点は、「自分が何であるか」に自らの活動を通じて答える厳密な自己認識なくしては、克服し得ない。

第4回かわさき自治研集会

(地方自治研究センター後援)

全体会 6月29日(金)

分科会 6月25日(日)～27日(水)



うたぎやどこ

シェフィールド大学の学生たちを5月27日(日)に大阪空港まで送ってきた。思えば長い38日間であった。スタッフのうちひとり4キロ、もうひとり3キロの減量ができたといって喜んで(？)はいたが……。

ある学生は川崎に来てから毎夜日本人との交流を深めた。深めすぎたためか、川崎市の大運動会に飛び入りで百メートル競争に出場したところ、気分が悪くなってダウン。ついに3日間授業も受けられずフトンの中で過ごしていたという。若いことはすばらしい、たとえ無鉄砲なところがあったとしても。

感受性の豊かな時期にこの川崎で過ごした思い出は永遠に彼らの心の中に残ることだろう。

今後は受け入れだけでなく、川崎から美しいシェフィールド市を訪問する番である。

(ダイミアン)

自治研 センターニュース

1990. 9. 8
No.90

発行責任者 深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話 044 (244) 7610

KJネットフォーラム in KAWASAKI

9月22日(土) 産業振興会館

—かわさき元気なまちづくり—

都市化が急速に進み、かつての「工都」から「ハイテク都市」へと変貌をとげようとしている巨大都市川崎。川崎駅周辺の整備、マイコンシティの建設、鹿島田駅周辺再開発など、東京への一極集中を背景とする業務核都市としての都市基盤整備は着実に進んでいます。その一方で、この人口117万を擁する政令指定都市川崎は、基礎自治体としての規模があまりにも大きすぎるがために、「自治」のしくみづくりは遅れているのが現状です。

これからのまちづくりのためには、市民ひとりひとりが、そして職員ひとりひとりが、自ら情報を発信し、ゆるやかな「ネットワーク」をつくりながら、生活者の視点から、地域の視点から、わたしたちのまちを見つめ直していく作業が大切になってくるでしょう。今回のフォーラムでは、川崎市職員の自主研究グループによる発表とディスカッションを通して、元気な川崎のまちづくりについて、考えていきたいと思えます。

10:30

第一部

「かわさき自主研バトルロイヤル」
オルタナティブ川崎研究会 火曜倶楽部
「川崎学」研究会 行政法研究会
京浜都市問題研究会 下水道、だれでもでれる講座
スピリット T GAL 乳幼児の生理・発達
ボストン倶楽部 みどり研究会

12:00

昼食

ビデオ放映 「空から見た川崎」
ミニガリバー 「ガリバー地図 in KJフォーラム」

13:00

第二部

「目覚めよかわさきマンモス」
—かわさき21世紀のまちづくり—

PART I

川崎市職員自主研究グループからの問題提起
・オルタナティブ川崎研究会 宮前区役所 山内 秀行
「ワークショップによるまちづくりの手法」
・行政法研究会 民生局 山口 道昭
「市民参加と行政手続き」
・下水道、だれでもでれる講座 下水道局 伊達 知見
「内なるパワー・自主講座を通して」
・T GAL (川崎の国際化を考える会) 田島支所 山田 貴夫
「外国人市民の権利保障について」

14:00

PART II

パネル・ディスカッション
パネリスト
浅井 雅美 川崎の国際化を考える会 市川緋佐磨 稲毛神社禰宜
大下 勝己 いたかの会 小松ゆり枝 都市環境研究所
宮前区遊び場とまちづくりを考える会グループポレポレ
コーディネーター
小早川 智明 環境都市構想研究会

17:30

第三部

「かわさきワイワイ焼肉パーティ in 西の屋」
会場から17:15にバスが出ます

20:00

解散

参加費

第一部 第二部 1,000円 (昼食費別 700円)
第三部 4,000円

申込み

中村 茂 or 平井 孝 川崎市宮前区役所諸税課 044-856-3188
—9月14日までに電話で申込みを—

問い合わせ

浅井 雅美 川崎市溝口駅周辺再開発事務所 044-822-5213
桃井 敏博 川崎市宮前区役所福利課 044-856-3152
鈴木 健一 神奈川県国民健康保険課 045-201-1111(5603)
久住 剛 神奈川県建築指導課 045-201-1111(6420)

主催
協力
後援

KJネットフォーラム実行委員会
川崎市自主研究グループ交流会
川崎市職員研修所
(社)川崎地方自治研究センター
神奈川県自治総合研究センター (予定)

市民オンブズマン制度とは

6月21日、7月6日、7月19日の3回にわたって市民オンブズマン連続講演会が開催された。

会場からは、「必ずしもオンブズマン制度を設けなくとも、既存の救済制度でも十分その機能を果たすことができるのではないか」「市役所職員の仕事が住民監視のもとにさら

されるのではないか」等の質問が参加者から寄せられた。講演者はそれらの質問にもひとつひとついねいに回答しているが、自治研センターでは3回の講演（質問も含めて）を冊子にまとめる作業を行っている。

以下条例案の一部を掲載するので参考としていただきたい。

趣旨 市民主権の理念に基づき、市民の市政に関する苦情を簡易迅速に処理し、市政を監視し非違の是正等の措置を講ずるよう勧告するとともに、制度の改善を求め

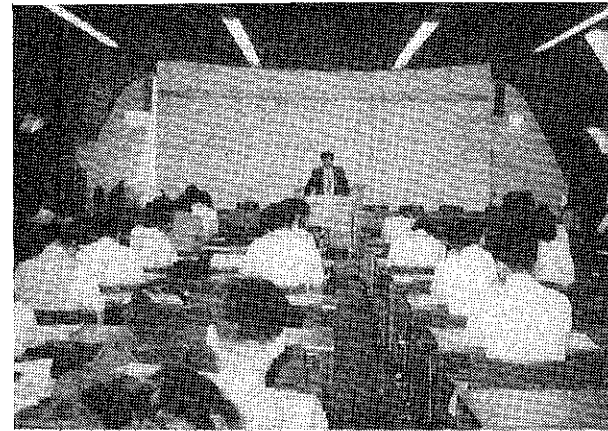
るための意見を表明することにより、市民の権利利益の保護を図り、もって開かれた市政の一層の進展と市政に対する市民の信頼の確保に資することを目的として、本市に川崎市市民オンブズマンを置くため制定するもの。

① 目的及び設置

市民主権の理念に基づき、①市民の市政に関する苦情を簡易迅速に処理し、②市政を監視し非違の是正等の措置を講ずるよう勧告し、③制度の改善を求めるための意見を表明することにより、市民の権利利益の保護を図り、もって開かれた市政の一層の進展と市政に対する市民の信頼の確保に資することを目的として、市民オンブズマンを置く。

② 管 轄

市民オンブズマンの管轄は、市の機関の業務の執行に関する事項及び当該業務に関する職員の行為。ただし、次の事項は除く。



(1) 判決、裁決等により確定した権利関係に関する事項

(2) 議会に関する事項

(3) 個人情報保護委員の職務に関する事項

(4) 職員の自己の勤務内容に関する事項

(5) 市民オンブズマンの行為に関する事項

③ 職 務

(1) 市民の市政に関する苦情を調査し、簡易迅速に処理すること。

(2) 自己の発意に基づき、事案を取り上げ

調査すること。

(3) 市政を監視し非違の是正等の措置を講ずるよう勧告すること。

(4) 制度の改善を求めるための意見を表明すること。

(5) 勧告、意見表明等の内容を公表すること。

読 書 会

「市民と援助」－今何ができるか－

松井やより

西欧のNGOを動かす女たち／男たち、
そして第三世界の人びと —

彼らが語りかけるものは？

日時 9月17日（月）午後6時～

会場 市労連ビル4F

※どなたでも参加できます。

講 演 会

「北の海の交易者たち」

上村 英明

1956年生まれ。「市民外交センター」

主催。著書『ワンニャン探偵団』。

「北の海の交易者たち」は、アイヌ民族の交易とその独自の社会システムを世界の様々な事例の中に置いて描き出している。しかもその視線は日本人の「常識」の側にはない。生きたシステムの内側に入って関わろうとしているのだ。

日時 9月17日（月）午後3時～

会場 市労連ビル5F講堂

うたぎのどこ

八月の末に「アジア太平洋国際シンポジウム」が開催された。基調講演はウラジミール・イワノフ氏で「ソ連科学アカデミー世界経済国際研究所アジア太平洋部長」という長い肩書きをもつ。

アジア・太平洋地域の安全保障や朝鮮半島の情勢についてここに書くことはないが大きな変化が目前に迫っている。

ソ連外相シュワルナゼ氏が来日し、日ソ外相定期協議が開かれ、ソウルでは分断以来初の韓国と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の南北首相会談が開催される。

ガソリンが値上がりすると聞いてあわてて新聞を広げたりするが、世界の動きがすぐに私たちの生活に影響し、経済大国日本の動向は世界中から注目されている。

アジアの平和に貢献することが日本に求められている。できなければ（アジア以外に）引っ越しか!?

（ダーミアン）

自治研 センターニュース

1990. 10. 18
No.91
発行責任者 深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話 044 (244) 7610

基礎からの英会話

11月27日(火)スタート

申し込みは自治研センター(244)7610へ

自治研センター主催の英会話講座を11月より開設します。講師はケリー・ダイアンさんです。今回は英会話の初歩からの手ほどきをしますので是非参加して下さい。

1 日 程

- ①11月27日(火)
- ②12月4日(火)
- ③12月11日(火)
- ④12月18日(火)
- ⑤1月22日(火)
- ⑥1月29日(火)
- ⑦2月5日(火)
- ⑧2月12日(火)
- ⑨2月19日(火)
- ⑩2月26日(火)
- ⑪3月5日(火)
- ⑫3月12日(火)

(都合により日程を変更することがあります)

2 時 間

午後6時～7時30分

3 場 所

市労連会館4F会議室

4 費 用

15,000円(テキスト代含む)

5 定 員

20名(先着順, 定員になりしだい締め切ります)

6 内 容

英会話の初歩からの手ほどき

7 申し込み

電話にて申し込む。244-7610まで



ケリー・ダイアンさん。オーストラリアから川崎市へ国際交流員として勤めている。オーストラリアと日本の国際交流に役立つ仕事を将来も続けてゆきたいとのこと。趣味はテニス・水泳・スキー等のスポーツ。

読書会

「豊かさの精神病理」大平健

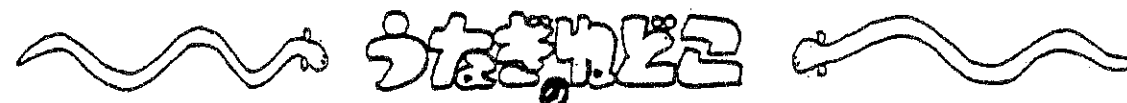
さんぜんと輝くモノがあふれる現代。軽い精神的不調を訴えて精神科を訪れる患者の中に、人間関係の葛藤を、モノとの関係に巧みに置きかえている人たちがいる。ブ

ランド品にアイデンティを求め、マネキンのような恋人に囲まれ、人の心を味わうために高価な料理を食べにいく。豊かな社会特有の病像を描き、それを生む日本の社会を考察する。

日 時 10月29日(月)午後6時～

会 場 市労連会館ビル4F

※どなたでも参加できます。



今年の夏は長く暑く暑かったため、センターニュースのうなぎ君のスペースもこのようにスリムになってしまった。
センターでも英会話講座を11月下旬から開催するが、これから英会話をはじめようとする人に格言を一つプレゼント。
「英会話の上達は背中にかけた汗に比例する」
筆者も5年間某大学の英会話サークルに所属していたが、ダンスパーティーのチケット売りに奔走していたため今でも苦労している。
学習の秋でもある。英語に限らず何かを学び始めることをお勧めしたい。
(ターミアン)

自治研 センターニュース

1990. 11. 20

No.92

発行責任者 深堀義孝
川崎地方自治研究センター
電話 044 (244) 7610

オンブズマンって何？ … 連続講演会記録完成 …

講演会

ODA 市民・自治体に何ができるか
吉村慶一 (問い直そう援助を！市民
リーグ・REAL代表)

世界一のODA (政府開発援助) 大国である日本。しかし本当に相手国の利益にはなっていないのではないか。繰り返し疑惑が指摘される不透明な構造、「開発」により環境が破壊されつつある現状等を市民の立場から検証し、援助のあり方を考える。

日時 12月4日 (火) 午後6時～
会場 市労連ビル5F 講堂

市民オンブズマン制度は市民主権の理念に基づき、市民の市政に関する苦情を簡易迅速に処理し、市政を監視し、問題があればそれを是正するよう勧告し、制度を改善するための意見を表明することにより市民の権利利益の保護をはかるために設けられました。

またこの制度はさきに制定された情報公開制度、個人情報保護制度とならんで川崎市行政の大きな柱の一つになります。

しかしオンブズマン制度の趣旨や理解はまだ十分とはいえないことから(社)自治研センターでは三回の講演会を開催し、このほどこの記録集を作成しました。

希望の方はセンター (244-7610) までご連絡下さい。(1冊 300円)

読書会

「パレスチナ」 広河隆一 (岩波新書)

1967年、23歳の青年がキブツに理想の共同体を求めてイスラエルに渡った。だが、たちまち勃発した第三次中東戦争。「アラブ人とユダヤ人の宿命的確執」という理解を、眼前の事実が打ち砕いていった——。以来、戦火やまめパレスチナ、レバノンの絶望と希望をペンとカメラで伝えてきた著者が、パレスチナ問題の輪郭を体験も含めて語る。

日時 11月29日 (木) 午後6時～

会場 市労連ビル 4F

※ どなたでも参加できます。

人権はいま……

自治研センターでは川崎市より委託を受け、①在日韓国・朝鮮人を理解するための啓発パンフレットづくり②川崎市の外国人市民施策の調査・研究にとりくんでいる。

啓発パンフレットづくりにおいては、川崎市内にどれほどの外国人労働者がいるのかの調査や、ふれ合い館等の取材も行って、いわれなき差別や偏見を解消することができるような冊子づく

りをめざしている。

また外国人市民施策の調査・研究については、「内なる国際化」の進展のために、まず現状を正確にとらえ、川崎市におけるあるべき姿を浮き彫りにする。

これまでもセンターでは「は一つ・は一」(川崎に住む外国人のための生活ガイドブック)等を発刊して国際化についてとりくんでいるが、今後とも多角的な視野から活動を推進する予定である。



10月の末から11月の初旬までの13日間、スウェーデン・ドイツ・イギリスの三カ国を訪問した。
旧東ドイツのベルリンに入って驚いたことは、15年位は旧式に思える車が、煙をまき散らしながら街を走っていたこと。燃料は質の悪い石炭を使用していて、街はスモッグでおおわれている。平均しての時給は約四分の一、労働時間は長く生産効率は悪い。統一ドイツの今後は前途多難である。
このようすをスペイン、ポルトガル等の国が見守っている。旧東ドイツの今後はEC統合に影響を与えるからである。

(ダーミアン)